



東日本大震災後、6回目の綿花収穫 東北コットン、豊作です！



真っ白い綿がたくさん。これまでの活動が実を結び始めています。

被災農地の復興を願い、2011年から始まった『東北コットンプロジェクト』。2016年シーズンはこれまでで最高の収穫量となりました。宮城県荒浜、名取、東松島の各農場に、真っ白な綿と笑顔が広がりました。

文／宮川真紀 撮影／中野幸英

被災地でも綿花は育つ 名取農場が実証

収穫を迎えた畑の前に、名取農場で歓声が上がりました。70アールの畑に植えられた綿木すべての枝に大きな実がつき、はじけた殻からはふわふわの綿がこぼれています。2016年晩秋プロジェクトのチームメンバーとボランティア約50名で収穫しましたが、1日では採りきれないほどの豊作です。栽培担当の耕谷アグリサービスの佐々木和也さんは「皆さんの笑顔が見たいから、頑張りました」と控えめですが、収穫量を上げるためにさまざまな研究工夫を重ねています。収穫時期から逆算して苗を植え、伸びる枝を途中でカットして実に栄養分を集中させるなど、シーズンを通して手塩にかけて育てています。

名取農場では、土壌の養分が少なく、毎年植える畑を変えています。今回は震災直後と同じ場所です。「海水が流れ込んで塩分濃度も高く沼のようだったのに、今はインドの綿畑のように豊作。現地の方々の努力のたまものです」(プロジェクト発起人リー・ジャパン 細川秀和さん)と、たった5年でのこの成果にチームメンバーからも驚きの声が上がりました。佐々木さんの栽培方法をほかの農場でも共有できるように、いったん規模を縮小した荒浜農場でも今シーズンから取り入れ



大人も子供も夢中で綿摘み。自然とみんな笑顔になります。

て、見事な白い綿が実りました。収穫にはJALグループから27名の社員が参加しました。震災後初めて東北を訪れた客室乗務員の飯塚康子は「以前、機内で東北コットンでできたハンカチをお客さまにお渡ししていました。今回畑に育つ大きな綿に初めて触れ、携わったチームメンバーや農家さんの力強い思いをあらためて実感しました。また、震災時のご苦労も現地の方に伺い、職場にも伝えていきたいと思えます」と、体験することを得るもの大きさを感じていました。名取農場の綿花はその後まはじつけ、佐々木さんによると「収穫後もまた畑が真っ白くなりました」とのこと。収穫作業は年が明けた1月いっぱいまでかかり、昨シーズンを遥かに上回る収穫量に。被災農地でも、気温の低い場所でも綿花は育つことを、名取農場は実証してくれました。

地元の皆さんも 一緒に楽しむ東松島農場

プロジェクト3番目の栽培地、東松島農場では綿花の収穫祭が行われました。ここは初年度荒浜農場で綿花栽培を始めた赤坂芳則さんが、地元近くの被災地域で始めた農場です。3カ所での唯一チームメンバーが種まきにも参加し、綿の成長を実感できる場でもあります。「被災者の癒やしの場に」という思いでつくられた場だけに、年々地域の方に知られるようになり、たくさんの方が集まる賑やかな収穫祭となりました。

4シーズン目の今回、綿花の出来もぐんと上がりました。広い畑に100人以上の参加者が半日かけて採っても採りきれないほど。2015年から本格的に栽培を担当した松岡孝記さんは、

「昨年秋から農業を始め、稲刈りが終わったからの限られた時間で綿の作業を行いました。「ここは風が強く、葉っぱをもつていかれてしまっています。それで葉を全部落とす、完全せん定をしました」と松岡さん。「これを専業にできればもっと手をかけられるのに」と悔しそうですが、来シーズンはもっと多くの収穫が期待できそうです。収穫の後には皆さんの食べ物屋台に歌や踊りのステージ、恒例の大抽選会も実施。JALグループからは12名が参加し、カレー作りを担当しました。チームメンバーも地元の皆さんも一緒に楽しむ、このような機会もプロジェクトの嬉しい一面です。またここに来たい、そんな思いが活動を続けていく原動力にもなっています。

JALはこれからも東北コットンプロジェクトを通じて、復興支援を行ってまいります。

JAL オリジナル浮世絵風ハンドタオルが誕生



Illustrated by Yu Suda

今年の新作は、JAL公式Facebookで人気のYu Suda氏の作品より3種を忠実に再現した、マイルとの交換限定商品です(ガーゼ面ヨコ糸に東北コットン3%を含んだ糸を使用)。3,000マイルで交換できますので、ぜひこの機会にご利用ください。

■ JAL ミニマイル特典
www.jal.co.jp/jmb/minimile/

■ 東北コットンプロジェクトの詳細は、下記をご覧ください。
www.jal.com/ja/csr/disaster/tohokucotton.html



東北アンテナショップでの 応援販売

東北応援の一環として、都内にある東北6県のアンテナショップで応援販売を行っています。各県の出身者を含む社員のボランティアや役員らが参



加し、特産品や旬のものをお勧めしたり、観光パンフレットの配布や店頭での呼び込みを行いました。昨年は6月～10月にかけて秋田県、宮城県、岩手県、福島県、青森県のアンテナショップで実施。今年1月には山形県のショップでお客さまに観光PRを行い、お買い物をお楽しみいただきました。今後も社員一丸となって応援販売に参加し、盛り上げてまいります。

JAL 東北応援プロジェクト 「行こう！東北へ」復興応援研修



JALグループでは2013年より、社員が東北を訪れ、実際に見て、感じて、復興の応援をする『復興応援研修』を実施しています。これまで宮城県南三陸町・女川町、岩手県宮古市・大槌町を中心とした三陸沿岸被災地、宮城県名取市・亘理町、福島県福島市を訪問。2016年は7月と9月に南三陸町、女川町で漁業体験や植樹、遊歩道整備などのボランティア活動を通じて、被災地の復興への道のりを学びました。引き続き多くの社員が研修に参加し、復興応援を行ってまいります。